

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201286
法人名	社会福祉法人 日親会
事業所名	グループホーム ラ・ファミーユ
所在地	愛媛県今治市菊間町浜1 4 5 3 番地 1
自己評価作成日	平成22年12月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日親会理念とグループホーム理念にある、笑顔（笑い声の絶えない）が溢れ、利用者様が入居したことを喜んでもらえるようなグループホーム作りに、職員一同丸となって努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

併設施設合同で行う「夏祭り」に地域の方も招き、利用者等と一緒にバザーを楽しまれたり、地域の催しごとの際には、法人全体で協力をされており、利用者手作りの手芸品を販売したり、飲食等バザーの協力もされている。小学校の運動会時には子ども達と一緒に玉入れをされた利用者もいる。地元の「清掃活動」には、法人代表者と管理者等が参加して地域の方達とともに活動された。「まもるくんの家」の登録を申し出られ、登下校等、子ども達の安全を守る活動にも参加されている。

この一年間、職員は、外部・内部研修の受講をすすめ、認知症の理解や介護技術等の習得に努められた。職員は「笑顔」で利用者に接し、利用者が「ホームに入居してよかった」と思ってもらえるよう、アイデアを出し合い取り組まれている。「楽しく運動できるようなレクリエーション」を考えられたり、具を工夫したホットケーキ作り等をされている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名	グループホーム ラ・ファミリーユ
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏名	安永英和
評価完了日	平成 22 年 12月 31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 施設の理念である『親愛』『共生』『向上』の下、グループホーム職員皆で決めた『笑顔』の理念とで、職務に取り組んでいます。	
			(外部評価) 法人理念である「親愛」「共生」「向上」には、昨年、それぞれに「目指すこと」を具体的に示され、居間等共用空間に掲示されていた。又、事業所の理念「笑顔」については、毎年、年度初めに、理念の見直しも含めて、職員で話し合っておられるが「地域の方達とも笑顔であいさつする」等「笑顔」の大切さを再確認して、これまで通りの理念を掲げて取り組みをすすめることを決められたようだ。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・地域の文化祭へ利用者の作品を出展・参加。 ・地方祭で御神輿や御供馬を招いたり、祭りの現地へ見に行っています。 ・地元中学生の職場体験を受け入れたり、小学校の運動会への参加もしています。 ・当施設の夏祭りに地域の人を招き交流を行っています。	
			(外部評価) 併設施設合同で行う「夏祭り」に地域の方も招き、利用者等と一緒にバザーを楽しまれたり、地域の催しごとの際には、法人全体で協力をされており、利用者手作りの手芸品を販売したり、飲食等バザーの協力もされている。小学校の運動会時には子ども達と一緒に玉入れをされた利用者もいる。地域の「清掃活動」には、法人代表者と管理者等が参加して地域の方達とともに活動された。「まもるくんの家」の登録を申し出られ、登下校等、子ども達の安全を守る活動にも参加されている。市内の他介護事業所の職員が「夏祭り」に参加してくださった。	さらに事業所では「地域のために少しからでも何かできれば」と考えておられる。地域との相互協力の体制作りに向けても、事業所の目指すことを地域の方達に向けても示し、又、地域の方達が事業所に期待することをお聞きしたり、利用者が地域の方達と交流できる機会を作ったりしながら、グループホームと地域の方達のより良い関係を作っていきたい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所等で話し合いをしていますが、実際に地域の人々に向けて活かせることがまだ出来ていません。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 入居者様・家族様・地域・行政・事業所とで意見交換を行い、意見や要望等をミーティングで話し合い改善すべき事を速やかに行い、サービス向上にいかしています。</p> <p>(外部評価) 4月から会議を2ヶ月毎に開催されており、参加者からの希望もあって夕方5時半から1時間程度、開催されている。会議は、法人施設のデイルームで行っており、事業所から行事や外出の様子映像を見せられたり、職員研修の実績の報告や職員の異動、事業所内で行う「通所介護」の利用状況等を報告して、要望や助言を聞くようにされている。</p>	<p>さらに会議を貴事業所のサービスの「向上」に活かせるよう、会議内容等についても工夫を重ねていかれてほしい。事業所では「地域の方達のお話を聞かせてもらったり、ご意見等もうかがいたい」と考えておられ、会議メンバーの方達と利用者が交流できるような機会も考えておられた。春には「バーベキュー」等を楽しみながら交流することも検討されており「事業所や利用者のことをさらに知ってもらいたい」と話しておられた。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議以外だと、手続き等で市役所の支所へ行った時などに色々情報などをいただいています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に、市の担当者の方が出席してくださっている。</p>	<p>運営推進会議に、市の担当者の方が出席してくださっている。</p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 代表者及び全職員で、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。</p> <p>(外部評価) 管理者は「身体拘束」の知識を深められるよう資料を作成して、職員に配布されたり、時に職員から「これは拘束に当たりますか」と質問を受けるようなこともあり、一緒に考えながら身体拘束のないケアの実践に取り組まれている。玄関は、暗証番号を入力して開けるようになっているが、日中は解錠しており、自由に出入りできるようになっている。事業所の玄関の内側の扉には、出入りするとチャイムが鳴るようになっていた。</p>	<p>代表者及び全職員で、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者の虐待についてミーティング等で話し合いを行い、言葉が暴力にならないよう言葉使いや表情などをリーダーを中心に職員が互いに気を配ったり、入浴介助・トイレ介助時などにも身体の状態をチェックし異状があれば上司報告・申し送りでの報告し、防止に努めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて説明等を行っています。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人様と家族様等に、施設見学をしていただき契約書及び重要事項説明書を説明し、本人様・家族様側の要望・不安・疑問などの思いを十分に話し合い理解・納得をしていただいています。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や電話など、家族様等から管理者や職員・グループホーム自体への意見・苦情等があれば伝えていただき、速対処するようにしていますし、グループホーム玄関に意見箱を設置して直接伝えられない人の意見・苦情も対処しています。 (外部評価) 利用者の体調や変化等については、管理者がご家族に電話等で知らせておられる。又、ご家族に毎月送付する書類の中に、利用者個々の担当職員が、ご本人の写真とともに一筆箋で生活の様子を報告されており、お返事をくださるご家族もあるようだ。頻繁に来訪することが難しいご家族には、来られた際に、行事時の写真等をまとめたアルバムを見てもらうようにされており、様子がよくわかるとご家族に喜ばれている。	事業所では来月、第一回「家族会」を開催することを決めておられた。事業所が提供するサービスについて、利用する側であるご家族からの意見を引き出せるような会議の工夫を重ねていかれてほしい。事業所では、コルクボードを用いて日頃の様子の写真等を掲示することも考えておられ、ご家族が知りたい情報を提供できるような取り組みの工夫や情報をご家族と共有しながら取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月1回ミーティングを行い、その場で提案出来る機会を設けている。提案のあった場合は、運営者と検討して必要なものや活用可能なものに関しては運営面で反映させている。	
			(外部評価)	
			この一年間、職員は、外部・内部研修の受講をすすめ、認知症の理解や介護技術等の習得に努められた。職員は「笑顔」で利用者に接し、利用者が「ホームに入居してよかった」と思ってもらえるよう、アイデアを出し合い取り組まれている。「楽しく運動できるようなレクリエーション」を考えられたり、具を工夫したホットケーキ作り等をされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			各自がそれぞれの課題、目標を立て、その進捗度を評価するとともに、行動評価表を基に評価を行い、その結果を昇給及び賞与等に反映させるようにしています。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			外部研修の情報がはいると回覧し、希望者の勤務を調整して参加し、毎月施設全体で内部研修等を行っています。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			代表者・管理者・職員レベルでの個人的な交流は行っているが、事業所間での交流がまだ出来ておらず、これから取組みたいと思っています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			まずは、本人様・家族様等にホームへ来ていただき、話しをよく聴いてから説明し不安を解消していただいてから実際にホームの見学(触れ合い)をしていただいてから具体的に話し合いを行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>上記の事を本人様・家族様等と一緒にいき、不安・悩み・要望をよく聴いた上で、本人様と家族様の生活状況・問題点等をよく聴いて、家族様との信頼関係作りに努めています。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人様や家族様の相談に応じて、当施設内の他の事業所サービスやグループ内他の施設サービスを進める話しも本人様や家族様の条件に合わせてしています。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>お菓子作りや農作業などを利用者様から指導を受けたり、外出時に花や虫などの名前を利用者様から教えてもらったり、行事の作業とか利用者様の得意分野を職員が利用者様を頼りにして関係を築いている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族様には、利用者様の日々の様子やエピソードなどを報告し、家族様にも協力してもらえる支援はおねがいし、今後利用者様を支えていく上で必要な情報を共有し家族様と良い関係を築いている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様・家族様が希望があれば、近隣・友人等の顔馴染みとの電話で会話や面会も実施しています。外出行事で、ドライブや買い物などで思い出の場所へ行ったり、通りかかった時などに思い出話をしたりもしています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族が毎日来られるような方もいる。地域行事等にも積極的に出かけ、地域の人達とも交流されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は、出来るだけ居室からフロアに出て他の利用者様・職員と過ごしていただき、利用者様同士の関係を職員が把握しており、トラブル発生を未然に防ぎ対応しています。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了後も、本人様や家族様からの相談にのつたり、終了後も他の介護サービスへ紹介・仲介を行っています。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人様の意思を尊重しつつ本人様の状況を考慮し、出来る限りの対応をおこなっています。 (外部評価) 介護計画作成前には、要介護認定の項目を参考にアセスメントされ、利用者個々の現状の把握に取り組まれている。	事業所では、ご家族との関係をさらに深めて「利用者ご本人の情報収集」に努めたいと考えておられる。今後、センター方式のアセスメント表を用いて個々のアセスメントをすすめていくとされており、居室に表を貼って職員やご家族、ご本人が記入して、それらを計画に反映していきたいと考えておられる。さらに、排泄等の支援が難しいような利用者もあり、原因をひも解いていけるようなアセスメントにも、力を入れて取り組んでいかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族様等に、利用者様についての聞き取りを行うのですが、家族様にもよく分からないケースの時でも、出来る限り把握できるよう努めています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) グループホーム入居後1ヶ月程は、利用者様自身の生活パターンや癖等を細かく記録して把握する時間に当てています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			グループホームでの生活が、安全と安心が保障された利用者様主体の生活になるよう利用者様・家族様と職員の意見を取り入れ、利用者様に適した方法で介護できるよう介護計画を作成しています。	
			(外部評価)	
			利用者個々に担当職員を決めて、情報収集や支援を検討されており、職員ミーティングで日々の職員の気付き等を話し合い、計画作成担当者とケアマネージャーが計画を作成されている。職員ミーティングで毎月介護計画についての支援状況をモニタリングされ、3ヵ月ごとに評価して6ヵ月ごとに見直しをするようになっていく。利用者個々が「安心できる生活を営めるような計画」の作成に努めておられる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の状況を介護記録に記載し、情報を共有して話し合いを行い介護計画に反映しています。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			事業所内で対応出来ることと、隣接する同施設で対応出来ることに関しては、必要に応じて柔軟に対応しています。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			大きな行事の時に、民生委員さん・婦人部さん・短大生さん・地域のボランティアグループさんが手伝いに来てくださったり、中学校の生徒さんが利用者様に太鼓演奏等で来てくださっています。昨年は、消防署員に来ていただき、『応急処置・心肺蘇生』研修会をしていただきました。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 週1回の協力医療機関の医師による往診を行っています。 基本的に病院に関しては、家族様の希望に合わせていま す。家族様が他の病院を希望する場合は、家族様対応で 行ってもらっています。</p> <p>(外部評価) 入居時にご家族等と話し合い、現在、利用者は協力医療機 関の医師に診てもらおうようになっており、医師が毎週同じ曜 日に往診に来てくれるようになっている。往診後、ご本人の 体調に変化があるようなら、管理者がご家族に電話で報告さ れている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受 診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者様の身体に異状が発生・発見したら、介護職員と看 護職員とで、利用者様に適切な受診や看護を受けられるよう に支援を行っています。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるように、病 院関係者との情報交換や相談に努めている。ま たは、そうした場合に備えて病院関係者との関 係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時には、病院へ基本的な情報を提示し、入院先相談 員・家族様・職員が連携し、情報交換・相談を重ねて、利用 者様の退院後について皆で考えていくようにしています。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化した場合や終末期までのあり方についての対応は、 指針を入居時に説明していて、受け入れ先が見つかるまで 当施設で対応することで同意を得ており、家族や医療関係 者と連帯が取れ、出来る限りの支援をしています。</p> <p>(外部評価) 事業所では、入居時に、ご本人が重度化した時のこと等 について、希望を聞くようにされており、利用者ご本人の状態 が「入浴が難しくなった状態」に至った場合には、法人施設 か、又は、他施設等、移行先を紹介したり、一緒に探すよう にされている。事業所では「重度化や看取りの支援は大切な 支援」と捉え、現在、事業所自身の力量アップに努め、支援 できる体制を準備中である。今後さらに、ご本人やご家族の 不安や心配なことを聞き取ったり、事業所に期待することをう かがいながら、体制作りにも努めていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 昨年、消防署員の方々に来ていただき、応急手当や心肺蘇生の研修会を行いました。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練は、定期的実施していますが、地域との協力体制は運営推進会議で課題にしますが、まだ協力体制まで出来ていません。	
			(外部評価) 併設法人施設とともに昨年11月、夜間1階ユニット台所からの火災を想定した避難訓練を実施して、利用者全員避難口まで避難する訓練を行われた。運営推進会議時に近所の方等に協力をお願いされているが、体制作りにまでは至っていないようである。今後、地域の方達との関係作りにも取り組み、災害時等にも相互に協力し合えるような関係を作っていかれてほしい。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員皆、十分に注意を払って利用者様と接しています。ミーティング時にも利用者様に対する言葉かけ・言葉づかいや対応について話し合いも行っています。	
			(外部評価) 内部研修等で職員の利用者への対応や言葉かけ等について勉強されている。又、管理者は、職員の気になるような言葉や対応には、その都度、話し合うようにされている。調査訪問時、職員は「笑顔」で利用者様に接し、利用者と一緒に歌を歌ったりしながら利用者の笑顔を引き出せるよう、雰囲気作りにも努めておられた。	職員の利用者への対応や言葉かけについて、時にご家族からご意見をいただいたりするようなこともあるようだ。この機会を日々のケアを点検する機会と捉え、ご本人の立場に立ち、職員同士で点検されたり、気付いたこと等を話し合ってみてはどうだろうか。又、運営推進会議のメンバーや家族会時等、時々、意見をいただくような機会も作ってみてはどうだろうか。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員は、利用者様の理解力に応じて会話するよう心掛け、その会話から本人の思いや希望を聴いたり汲んだりして対応していくようにしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 全てが利用者の希望通りにはいきませんが、出来る限り希望にそった日々の暮らしが出来るよう努めています。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理容・美容に関しては、利用者様や家族様の希望に沿って対応としています。自分で出来る人は、起床時に洋服を選んでもらったり洗顔・整髪を自分でしていただき、自分で難しい利用者様の場合お手伝いさせていただいております。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様が、自分で出来ることに関しては手伝ってもらったり、職員と一緒に準備や片付けを行っています。外出行事で、飲食店に行って好きな物を注文して昼食をすることもあります。	
			(外部評価) 法人の厨房から出来上がった食事が届き、利用者と職員で盛り付けをされている。法人の「給食委員会」には、管理者が出席して、利用者のお好きなものを伝え「いなり、にぎり寿司」をメニューに入れてもらったこともある。毎日、ホワイトボードに今日の食事のメニューを職員が書き、利用者が見て楽しみに待たれるようである。食後、皆の食器を洗ってくださったり、テーブルを拭いておられる利用者の様子も見られた。	以前は事業所で食事を手作りされていたが「職員が利用者にかかわる時間を確保する」ため、数か月前から、法人から食事が届くように変更されたようだ。「料理ができるに等しい等も大切」に考えて、職員の中には「手作りの食事に戻してはどうか」との提案もあるようだ。今後、月に数回からでも、利用者と一緒に食事作りを楽しむ等、食事作り等を通じて職員が利用者とかかわり、利用者の「笑顔」を増やしていかれてほしい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 隣接する施設の、給食業務提携している栄養士による献立での料理を食べてもらっています。水分は食事・おやつ・入浴・本人希望以外にも水分補給を行っています。一人ひとりの事情によつて調整しています。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを実施をしています。夜間に義歯は外し水に浸け、定期的に洗剤に浸け置きをして殺菌・消毒をしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの排泄パターンや状態に合ったトイレ誘導・介助を行い、失禁やトイレでの失敗を減らして紙パンツから布パンツへの変更を実施して、自立へ向かっての支援を行っています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>食事の前後にトイレに誘ったり、夜間、トイレの場所を間違ふような方には夜間の見守りやトイレに誘導される等、利用者がトイレで排泄できるよう支援されている。紙パンツを使用されている利用者も、布パンツと尿とりパットを使用する等、排泄の自立に向けての支援に努めておられる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>朝のおやつを、牛乳系とヨーグルト系を毎日交互にしています。散歩をしてもらったり、シャワートイレを利用したり薬等での調整するなどの対応もしています。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入浴の曜日は決まっていますが、入浴の順番についてはその都度職員が配慮して決めています。利用者の体調不良によって入浴出来ない場合は、翌日に入浴するか清拭などで対応しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>現在は、お風呂を好まれる利用者が多いようで、事業所では、2日に1回は入浴できるように支援されており、ご家族とも相談しながら入浴剤を入れる方もいる。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとり入眠時間が違うので、眠くなるまでフロア等ですごしていただいています。休息は、職員が昼夜逆転にならないように配慮しながら休息してもらっています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が利用者皆の服薬を管理しており、各利用者のカルテのなかに新しい処方箋もファイルし、介護職員がいつでも確認できるようにしています。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様の生活歴や、現在興味がある事などを職員で話し合って限りはありますが、個人こじんでやりたいことが事が出来るように支援しています。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望時の状況にも寄るが、出来る限りは外出が出来るように心掛けています。 (外部評価) 奥道後の菊花展を見に出かけた際には、うどんを食べて帰られたようだ。外出先でご家族と待ち合わせして地域の神社に初もうでに行かれたり、港に帆船を見に行かれたり、地域行事にもよく出かけておられる。ご家族と一緒に散歩やドライブに行かれることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人希望で小遣いを自分で持っている利用者様もいらっしゃいますが、殆どの利用者様が持っておらず小遣いをグループホームで預かり、本人の必要に応じて家族様に了解をもらってから出すようにしています。外出で買い物に行った時など、小遣いから金額を定め自分で品物を選んで買い物をする事もあります。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望があれば、電話での家族様等と会話してもらっています。また、利用者様の書かれた手紙等を、毎月家族様へ送っている封筒へ一緒に入れてもらっています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関やフロアの壁などに、利用者様と職員とで作成した季節の掲示してあります。共用の空間は広くて多目的に使う事ができて、空調設備・床暖房を完備しています。	
			(外部評価) 居間は広い造りになっており、床暖房で足元があたたかく過ごせるようになっている。掃除業者が入り、事業所内は清潔を保てるようにされている。又、昼食後には、利用者が掃き掃除をされている様子もうかがえた。2階ユニットには天窓があり、自然の光が入るようになっており、机の位置等にも配慮しながら利用者がまぶしさを感じないように配慮されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間は広く、自分の居室への出入りするのも自由なので、思い思いの場所で他の利用者様や職員と会話をしたり、テレビを見たり横になったりと自由に過ごされています。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族様・利用者様と職員とで話しをして、使い慣れた物を家から持って来ていただき、使い慣れた方向にベッドや持って来た物などを設置し、その後で職員と利用者様とで飾り付けなどを行っています。	
			(外部評価) 昼食後、居室でテレビを見ておられる方もあった。利用者が居室に入られる時には、職員がエアコンで室温調節をされている。全居室に洗面台があり、化粧水やくしを置いて整容等に使用されている。誕生日のプレゼントに職員から贈られたメッセージやレクリエーションでもらった1位のメダルを飾っている利用者もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者様一人ひとりが、日常生活・レクリエーション・行事を通して利用者様が出来る生活動作を失わないように支援しています。	